

令和8年度 全国学力・学習状況調査 結果考察と改善対策 甲西中学校

今年度の調査結果を踏まえ「学力に関する傾向と対策」と「生活状況に関する傾向と対策」をお知らせします。

学力に関する傾向と対策について

国語

○傾向

全体の正答率は全国・県と同程度だった。区分別では「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」に関わる問題の正答率が低かった。

問題別集計でみると、3四「文章のよい点や改善点などを書く」、4二「『ほうふつとさせる』に似た表現を抜き出す」の正答率が低かった。

一方、「知識及び技能」の対象2問の正答率が全国・県の正答率を上回った。また、生徒質問紙調査から「解答を文章で書く問題はどのように解答したか」に対して、「全問で最後まで解答を書く努力をした」の選択割合が高く、全国・県を上回り、学習への意欲への高さが見受けられた。

○対策

1. 文章の内容を正確に理解した上で、自分の意見を伝えられるよう、意見文や批評文を書くことに取り組む。
2. 書いた文章を読み合い、よい点や改善点を話し合ったり、自ら推敲したりして文章を整えられるようにする。
3. 国語辞典やタブレットを活用して、各語句の辞書的な意味を調べ、語彙を増やすことに取り組む。

数学

○傾向

全設問の正答率が全国・県と比べて下回った。特に大きく下回ったものは3、8（1）図形、5、9（1）データの活用である。その他にも共通して課題となるのは「証明する」「説明する」項目であった。問われていることは難しくなくとも、問題文を読み、理解する力に課題があると思われる。質問紙調査から「書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあった」という回答が全国・県に比べて大きく上回ってしまった。全国・県の正答率と同程度のものは2の同類項を全て書く問題や7（1）関数の問題であった。基本的な事項を問う問題については力を発揮できていた。7（2）、9（3）で無解答率が高く、課題が見られた。

○対策

1. 知識・技能の観点において、基礎技能・用語の意味の定着を図るために、言語活動を通して意見の共有を行う。状況に合わせての活用が難しい面もあるため、発問の仕方や共有方法を工夫していく。
2. 数や図形の性質を説明したり、その説明をもとに事象を数学的に表現したりすることが苦手であるため、授業において他者への説明の機会を確保する。多様な考え方を共通理解できるよう全体で確認する時間を設ける。
3. 深く考え、答えを導く問題を取り入れ、粘り強く最後まで取り組めるような課題を設定する。

英語

○傾向

「聞くこと」・「読むこと」・「書くこと」の3技能の調査で「聞くこと」については全国・県の正答率と同程度となった問題もあった。しかし、同じ聞く問題でも、4、5の選択肢が長めの英文になると正答率が下がる傾向にある。また、「読むこと」については9の物語を読み、登場人物の気持ちの変化を選択する問題で正答率が大きく下回った。「書くこと」では12の体験したことと感想を書く問題で無回答率が高かった。11①と13の日常的な話題についてまとまりのある文章を書く問題でも全国・県の正答率を下回った。IRT（生徒の正答・誤答が、問題の特性によるものなのか、生徒の学力によるものを区別して分析し学力スコアを推定する）スコアは全国・県と比べて低くなっており、課題が見られる。

○対策

1. 英文を「読むこと」「書くこと」に苦手意識がある生徒が多いと考えられるので、短時間で英文を読むことや、簡単な英文を書く活動を日々の授業で取り入れていく。
2. 授業の中で聞いたり読んだりしたことをペアで問答したり、意見交換を行う活動を取り入れる。
3. 英語を使う場面を増やし、ALTと直接会話する場面を多く設定する。またデジタル教科書を効果的に使えるよう工夫していく。

生活状況に関する傾向と対策について

○傾向

学習	○1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか ○授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思えますか ▲学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか ▲1、2年生の時に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか
生活	○あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか ○あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか

※○は全国や県に比べて良い傾向の項目 ▲は改善に向けて特に努力が必要な項目

○対策

1. 学校の授業以外の平日の学習時間が1時間以上の割合が少なく、30分以上1時間未満の割合が多い。学習塾等の時間も含めての結果なので、家庭学習の時間はやはり少ない。日常的に最低限の家庭学習の課題設定を各教科、学年生徒会の取組として行っていく。
2. 1、2年生の時のICT機器の使用については、1日に1回程度ほぼ毎日授業で使用している割合が少なく、週3回以上授業で使用している割合が多かった。デジタル教科書も使用できる環境なので、紙とデジタル、それぞれのメリットを生かしながらの授業を仕組んでいく。